

## StComm会議報告（案）

富士原・島

場所：北京大学

日時：2014年9月27-28日

参加者：John Chen (中国：議長), Jiabiao Li (中国), Kim Juniper (カナダ), Marcia Maia (フランス), Sung-Hyun Park (韓国), Richard Hobbs (英国), Nobukazu Seama (日本), Toshiya Fujiwara (日本), Zengxi Ge (中国：コーディネータ)

要約：

今回のStComm会議での大きな議題は、主要国（アメリカ、ドイツ）の離脱危機および海嶺研究における財政状況の逼迫（フランス、イギリス、日本）をうけての運営、また今後インターリッジが主導的な役割を果たしていくための取り組み、であった。

運営については、日本から1日目に、先の連合大会中のインターリッジ国内集会で議論された緊縮財政による（国際コミュニケーションの維持）限定的活動案（極論）を提案し、2日目に、1日目の議論を元に修正案のインターリッジの新しい構造が提案・議論された。

StComm会議で合意が得られた案は、参加国はオフィス、メンバー（アソシエイトから改称）とプリンシパルメンバーを臨機に応じて選択できるようにする。プリンシパル国は相応の特権（Fellowship, Bursaryなど）

が得られるようにすることとした。アメリカとドイツの離脱はインターリッジとしては損失であるため、昨年あるいは一昨年からメンバー国となったという形とする。インターリッジの活動については、3rd Decade Planの実行に向けてインターリッジが主催する、3rd Decade Theoretical Instituteシンポジウム（仮称）を開くことを計画した（2015年9月25-27日、中国杭州にて開催予定）。シンポジウムは3rd Decade Plan各テーマのキーノート講演、若手・学生のポスター発表、グループディスカッションが主体となる。またAGUやEGUなどの大きな学会中にオープンな形のミニワークショップを開くことを検討した。そこで各国状況報告やプロジェクト紹介を聞くことができるようにする。詳細は決定次第、Eメールニュース、インターリッジニュースに掲載する予定である。

これらの活動を通じて、インターリッジの取り組みを示し、国際的連携、次世代間交流の促進を図り、新ワーキンググループ提案などに誘導できるようにすることを目的とする。

次期オフィスとなることにフランスに興味があることが示された。オフィスの提案審議、そして決定するのは次回会議になる。

次回のStCommは2015年9月28日に上記のインターリッジ主催シンポジウムと合わせて杭州で開催予定である。

会議メモ：

インターリッジオフィス報告：

主な事業はワーキンググループ主催のワークショップ、航海参加者（2名）、fellowshipへの資金提供、web更新、Eメール配信とデータベースの整備である。データベースの利用者数は把握できていない。

IR fellowship

9名の応募があり4名採択された。ISAには3名分用意されているが、1名の応募しかなかった。

National Update：

中国

インド洋海嶺（SWIR, Carlsberg）総合調査、Jiaolong 潜航調査（マリアナ東海域：マンガンと生物採取）、IODP349。6000, 4500 m AUVの試験潜航を予定（2014年9月9潜航）。

フランス

スケジュールされている航海（～10航海）の紹介。IFREMERより「ミネラルリソースのインパクト」のような報告本発行（フランス語、900ページ！、要約が100ページ）。2015年よりMarion Dufresneが修理に入る予定（1.5年）。

日本

インターリッジジャパン集会、Quelle 2013の報告、TAIGA本の紹介。

英国

CaymanトラフをKOPRI, GEOMARなどと共同調査。

カナダ

ネプチューンネットワークのメンテナンス航海での生物、堆積物採取。ネットワーク拡張するための活動。

Kim Juniperは10月、JAMSTECにDONET関係者らを訪問予定。

韓国

Sung-Hyun Parkがサバティカルだったので特に活動なし。南極海嶺研究について今後まとめる予定。新観測船と新砕氷船を建造中。

ワーキンググループ：

Circum-Antarctic WG

Sung-Hyun Parkにより説明、2015年AGUでセッションを組む予定である。

新ワーキンググループの提案：

Ecological Connectivity and Resilienceが審議された。（日本からSteering Committeeに渡辺裕美）。インターリッジとしては科学的な生態系研究と環境評価、

開発に対する認証のような役割を負わないことを留意することを要請する上で、承認された。

2014年予算（StComm開催時現在）：

繰り越し\$135,589、収入\$55,000、ISA\$15,000、計\$205,589で支出予定が\$126,580である。会費を入金しているのは、この時点では中国とノルウェーのみ。ドイツとアメリカは不払いを声明している。

Bram Murton提案のデータベース構築について審議：構築、メンテナンスは資金、人材とも大変である。外部のよいデータベースと重複する。外部のデータベースへのリンクを充実させることでよいとされた。